

第3学年 「英語」

1 学習の目標

英語や外国の文化に対する理解を深めるとともに、学校・家庭・地域など日常生活の中で、身近な人々と英語で積極的にコミュニケーションを図るための基礎的な力の育成を目標とする。特に3年生では、1・2年生の基礎学習を基に、事実関係を伝えたり、物事を判断したりするなど、コミュニケーションの幅が広がることに留意する。

- ことばの仕組み・意味・働きや言葉の背景にある文化に対する理解を深める。
- 積極的に自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したりしようとする態度を身につける。
- [聞くこと]簡単な英語を聞いて、相手が何を伝えようとしているか理解できるようにする。
- [読むこと]簡単な英語を読んで、書き手が何を伝えようとしているか理解できるようにする。
- [話すこと(やりとり)]簡単な英語を使って、自分の考えなどを話すことができるようにする。
- [話すこと(発表)]簡単な英語を使って、自分の考えなどを発表することができるようにする。
- [書くこと]簡単な英語を使って、自分の考えなどを書くことができるようにする。

2 評価の観点、場面・方法

【観点:知識・技能】

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解すると共に、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り・発表)、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。

- 場面:英単語の意味や使い方の発表・異文化理解に関する説明や話合い・教科書の内容理解・音読
- 方法:授業中の発言や言語活動等の観察・ノート・提出物・音読テスト・小テスト・定期テスト・パフォーマンステスト

【観点:思考・判断・表現】

コミュニケーションを図る場面、目的、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

- 場面:コミュニケーション活動(自由会話・インタビュー等)・英作文・手紙やメール文を書く活動・自己紹介スピーチ・自己表現・英語での説明、質問、応答・パスポート活動
- 方法:授業中の発言や言語活動等の観察・発表の観察・ノート・提出物・小テスト・定期テスト・パフォーマンステスト・教師やALTとの会話

【観点:主体的に学習に取り組む態度】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

- 場面:コミュニケーション活動(自由会話・インタビュー等)・英語の歌・パスポート活動
- 方法:授業中の発言や言語活動等の観察・発表の観察・ノート・提出物・音読テスト・小テスト・定期テスト・パフォーマンステスト・教師やALTとの会話

3 学習のポイント

- ①間違いを恐れず積極的にコミュニケーション活動に参加しよう。
- ②ALTの先生との授業は、生の英語に触れることができる貴重な機会なので、わからないときは聞き返し、表現できないときは身振り手振りを使って伝えよう。失敗を恐れず積極的に話しかけることをチャレンジしてみよう。
- ③授業中は進んで挙手や発言をし、わからないところはその場で解決できるようにしよう。
- ④繰り返し学習することを意識し、定着を図ろう。予習(意味調べ)・復習(本文を3回以上音読、本文や単語を書く練習、宿題)を習慣化しよう。小テスト・定期テスト・パフォーマンステストの際に学習の仕方を振り返ろう。

⑤先生の発音や CD の音声をよく聞き、英語独特の発音、リズム、イントネーションを真似してみよう。

⑥教科書の音読をしよう。丸暗記するほど読み込むと、発音もよくなり、単語や細かい表現も頭に入るので挑戦しよう。

⑦楽しむ気持ちを大切にしよう。英語の歌、ゲーム、ペアワーク、グループワーク、スピーチなど、色々な言語活動を楽しみながら英語を身につけよう。

4 学習内容と学習のねらい

学期	月	単元	主な学習内容
1	4	○辞書を使いこなそう	句動詞の引き方
	5	○Program 1 (Bentos Are Interesting!)	ask(tell, want)人 to~の文 It is ~ to...の文 主語+be 動詞+形容詞+that~の文
		○Program 2 (Good Night, Sleep Tight)	主語+動詞+人+疑問詞節 主語+動詞+人+that 節
	6	○Program 3 (A Hot Sport Day)	主語+動詞+目的語+補語(名詞・形容詞) 主語+動詞+目的語+動詞の原形 の文
○Reading 1 (Faithful Elephants)			
7	○Program 4 (Sign Languages, Not Just Gestures)	分詞の後置修飾の用法(現在分詞・過去分詞)	
2	8 9	○Program 5 (The Story of Chocolate)	関係代名詞(主格 who・which・that)
		○Program 6 (The Great Pacific Garbage Patch)	関係代名詞(目的格 which・that・省略)
	11	○あなたの町を世界に PR しよう	これまでの復習
	12	○Program 7 (Is AI a Friend or an Enemy?)	仮定法過去 I wish+主語+仮定法過去の文
○Reading 2 (Malala's Voice for the Future)			
3	1	○中学校の思い出を残そう	これまでの復習
	2	○Reading The Ig Nobel Prize Library Lion	これまでの復習